

木質梱包資材で国内最大手

安定供給と多品種で業界けん引

瀬崎林業

木質梱包資材の取り扱いで国内最大手の瀬崎林業（大阪市、遠野専之社長）は、業界トップクラスの取扱量を背景に、安定供給体制と幅広い品ぞろえを強みとして事業を展開している。

チリ産ラジアタ松製材 古屋、大阪、福岡、宮崎など全国10カ所、各

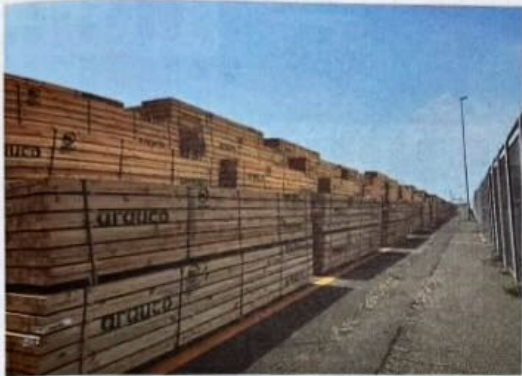
材では国内最大規模の取り扱いを誇り、近年は合板やLVL、国産杉材などへもラインアップを拡充。多様なニーズにワンストップで対応する体制を整えている。

同社は商社を介さない直需体制を採用し、仕入れ先・販売先の双方と直接取引を行っている。この直買取引により、国内顧客からの品質要求をサプライヤーへ正確に伝えて製品改善につなげているほか、直買によるコスト優位性を生かし、競争力ある価格設定を実現している。

拠点間の在庫・物流ネットワークを連携させることで、繁忙期にも在庫切れを防ぎ、迅速

ラジアタ松製材

主力のチリ産ラジアタ松製材は、最大サブ



木質梱包材の市場を支えるチリ産ラジアタ松製材

ライヤーであるチリ・アラウコからの輸入量の約半分を同社が担い、チリ材の取扱量では国内最大となる。常時、約1万2000立方メートルを在庫し、船便の遅延にも対応できる体制をとる。

当初は品質面で課題があったが、アラウコとの協議と相互訪問を重ね、改善を続けてきた。直接貿易の強みを生かし、木材使用の継続という業界課題にト

ップ企業として責任を果たしている。遠野社長は「需要減少によりバルク船は昨年からアラウコの単独配船となり、当社が梱包業界のなかで担う責任は一層大きくなって

いる。国産材への切りだ

替えが進むなかでも、LVL、合板製品は屋内外保管が必要だが、倉庫会社との連携で屋内保管体制を整え、輸送面ではチリ材や国産材との相積みによる即納を実現している。

ベトナム・中国産合板・LVL

2017年に中国産合板・LVL、19年にベトナム産の取り扱いを開始した。いずれも直買で、案件対応型の現地工場と綿密なやり取りを重ね、入庫まで一貫して管理する体制

を構築。取引工場の増加により、よりきめ細かく、多様な需要に対応できるように柔軟な対応力が高まっている。

国産材原木

戦後植林され、伐期を迎えた日本の大事な材に新たな価値を与え、製材や合板に



内航船で九州から運ばれる杉材

出を開始。丸太や製材品の仕入れから販売まで一貫して行うほか、問屋業として培ったノウハウを生かし、顧客の要望に合った製品、品質を選別し管理している。

物を流通させるだけでなく、林業に携わる立場として、価値ある大事な日本の資源を扱っているという認識を持ち、1988年の創業以来、その地盤と歴史を引き継いでいる。木材商社として日本の木材を広げていく考えだ。

今後も、品質と供給の安定を軸に、木質梱包資材の持続的発展に貢献していく。